

慈悲

E c h o No. 1 7 3
令和6年 孟蘭盆号
院寺寺寺
峰福林禅
一禅禅宗
* * * *
羽村臨濟会

「あなたは何を残しますか」

良寛さんの辞世の句は

「形身とて 何か残さむ 春は花

夏ほととぎす 秋はもみぢ葉」です

私達は何を残せるでしょうか。私事で恐

縮ですが、0歳の時、両親に連れられて、

この羽村、川崎の宗禅寺に来て、七八年が

過ぎました。最近しみじみと、私はこの地

に、この寺に育てていただいたんだと思

います。歳をとって、残りの人生を思い、

ふりかえりの時を迎えたのでしょうか。

この地で小・中学校に学び、高校にも

大学にも行かせてもらいました。鎌倉での

修行が終わり、三十歳で寺に帰り、消防団

や青年会議所、副住職の身軽さもあって、

実に自由奔放にやりたいことをして来まし

た。只、その時その時の状況の中で自分の

出来ることをさせていただけました。

今、寺で法事や葬儀をさせてもらい、檀

信徒の方々には 私たちは両親のおかげで

命をいただき、たくさんのおかけをい

ただいて生かされているですから、おかけ

さまの心をもって、お返しをしていきま

しょう」と、申し上げ、何をするかとい

うと、自分のいる場所で自分の出来ること

を、ありがたくすることが、お返しになっ

ていることを自覚してやりましょう」と申

し上げています。

子供も大人も自分のいる所で、自分がす

ることをするということですから私たちには一

人一人「種智しゅち」という素晴らしい宝物が

あります。自分を信じて、又、まわりの人

もそれを育ててあげる気持ちが大切だと思

います。

寺にいる人間として檀信徒に接する時に

は、つとめてその気持ちを忘れないように心がけています。この世は皆で作り上げていく大切な場所です。一人の力、みんなの力が必要です。

では寺としてはどうでしょうか。私は、

寺は檀信徒や地域社会、みんなの為に存在

していると思っています。とりあえずお寺

をお預かりしていますが、そこで思うこと

は、寺という場所をみんなで使える所にし

ていこうという事です。寺には本堂や客殿、

別の場所に三つの建物があります。副住職

の時から、それらの建物が、いつかみんな

の役にたてるようにと考え、少しずつ形を

作ってきました。今、それらの建物は志あ

る方々が、寺族と相談しながら有効に活躍

しています。寺が多くの方々に色々使われ

ていくことは、実にありがたい事です。寺

に限らず、みんなで共有出来るものは、あ

りがたく使わせていただきたいと思います。

個々の努力が積み重なって、素晴らしい

ものを残していくことが出来ます。

そして、それを見守るのが、良寛さんの

「形見とて、何か残さむ、春は花、夏ほと

とぎす、秋はもみぢ葉」です。

(宗禅 正俊)

心を整えて

昨年の夏は、気温四十度にも迫る日が多く、「酷暑」といった聞き慣れない言葉が出るほど暑い日が観測された年でした。日本気象協会によりますと、気温が

四十度以上観測された日は「酷暑日」とし、気温二十五度以上観測された日は「猛暑日」と呼ぶそうです。また、夜間の最低気温が三十度以上だった場合は「超熱帯夜」と呼称したそうです。文字だけ見ても、暑苦しい嫌な気持ちになる方もいらっしゃるでしょう。そして、今年も同じような暑さになりそうです。

そこで、「夏の暑さ」に向き会えるように、この禅語を紹介したいと思います。

滅却心頭火自涼

(心頭を滅却すれば、火自ずから涼し)

「頭」と「却」は助字であって意味を持たないため、「心を滅すれば」となります。

この言葉が広まったきっかけの一つが、織田信長による甲斐の恵林寺の焼き討ちです。当時、恵林寺の住職でありました快川禅師は、迫り来る炎の中「安禅は必ずしも山水を須いず。心頭を滅却すれば、火自ずから涼し」と唱え、火中に身を投じたと伝えられています。

「心静かに坐禅をするのに山や川は必要としない。心を滅すれば、燃える火も涼しく感じる事が出来る」という意味ではございますが、この「火」は「困難」や「苦難」といった「苦しみ」に置き換える事が出来ます。

また、「心を滅する」とありますが、心を完全に消すということではございません。心を完全に消してしまつては、涼しさも感じなくなってしまうため、「心を整える」ということになります。

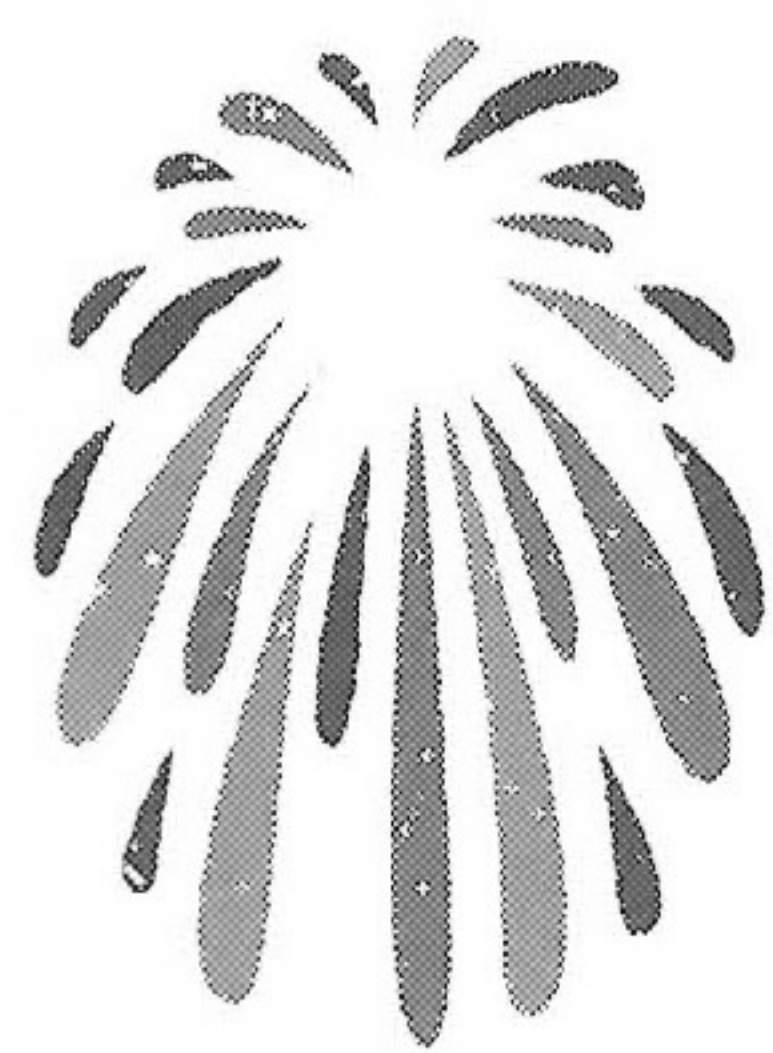
つまり、「どのような苦しみであつても、自分自身の心を整えれば苦しみでは

無くなる」という意味になるのです。

夏の暑さに例えると、「暑い暑い」と声に出して叫んでも、一向に暑さは緩和されません。むしろ、暑いことにいらだつてしまうことでしょうか。他にも苦に感じていることがあり、さらにそこに「夏の暑さ」にいらだつていては、自分自身から苦しんでいるようなものです。「暑い」という苦があるならば、それを「滅して(整えて)」みましよう。受け入れ難いかもしれませんが、夏の暑さはどうしようも無いこと。まずは受け入れてみてはいかがでしょうか。

私も「心を整えて」この夏の暑さに向き合つていこうと思います。とりあえず、エアコンを入れて涼みましよう。アイスも暑いほど美味しく感じるものです。

(禅福 尚玄)



禪と共に歩んだ先人

山岡鉄舟 XVI

臨濟禪と接し、その精神性や美意識に感化される事により、自分自身を高め、偉大な功績を残した先人達を紹介するという趣旨で進めていこうというこの項ですが、前回に引き続き、幕末から明治にかけて活躍し、現代の日本のあり様にも大きな影響を与えているといえる「山岡鉄舟」についてお話させていただきたいと思います。

侍従番長

明治5年（1872）東京へ戻り、明治帝の侍従に任じられた鉄舟は、ほどなく侍従番長となり、明治帝の最側近として活躍する事となります。

就任翌年、皇居で夜半、火事が起き、寝着に袴を着けて淀橋（現在の中野区）の自邸から急ぎ駆けつけ、帝をお守りした鉄舟でしたが、離れて住んでいては、

この様な火急の際に陛下をお守りするのは難しいと考え、皇居からほど近い、四谷に転居しました。

明治11年、西南戦争後の論功行賞に不満を抱く下士卒が皇居内で反論を起こしました。世にいう「竹橋騒動」です。

この時も鉄舟は寝着のまま袴をはいて、サーベル片手に足袋で御所に駆けつけました。明治帝はすでに起きておられましたが、そばを守るものが誰一人いない状態でした。そのまま一時間ほど側で奉仕しておりましたら、ぼつぼつ人々が参内してきましたが、いずれも参内服に着替えていました。「この危急の際に、服を

着替える余裕がよくある。そんなことで君側のお勧めが出来ると思ふか」と咎めましたが、自らは寝着のまま、不謹慎を詫びますと、帝は笑って「山岡、少しも構わぬぞ」と仰せられました。

夜が明け、騒動も鎮撫されたので退出しようとした鉄舟は帝に呼び止められ、「山岡、そちの携えておるその刀は、今

宵そちが誠忠の記念である。せひ、ここへ置いてゆけ」と刀をとりあげ、「この刀があれば、朕はそちと共にある心地して、心強く思うぞ」と仰せられたのでした。この刀は御所に置かれていましたが鉄舟の死後、帝は息子である直記を召されて、「そちの父が忠義の記念の刀である。大切に致せよ」と下賜されたのでした。

三島龍澤寺星定和尚に参禅す

皇居に勤める傍ら、休日には静岡県三島にある龍澤寺の星定和尚に参禅（提示された「公案」という問いの解明に取り組む事）しました。毎回徒歩で往復したという事です。毎回大変な健脚です。

なかなか公案は先に進みませんが、倦まず弛まず、三島に通う鉄舟でした。純粹な鉄舟の人柄が伺えるエピソードです。

以下次号（一峰 義紹）



禪寺雜記帳

◆今年もお盆となりました。年々夏の暑さが厳しくなっています。元気な人の命をわずかな時間に奪ってしまう熱中症にはくれぐれも気をつけましょう。

◆元旦に発生した能登半島地震で被災された、私達と同じ臨濟宗の吉祥寺の和尚様が先月、建長寺で二日間に渡って講演されました。この様子は建長寺の公式ホームページから視聴可能です。明日は我が身、実際に地震に遭うとどんな事になるのかを教えてください。貴重なお話ですので是非ご覧頂きたいと思えます。携帯電話（スマホ）でも見ることが出来ます。

◆吉祥寺は創建が西暦一三〇〇年の古刹、震源地から四キロと近く、凄まじい揺れで本堂は倒壊は免れたものの漆喰の壁は全て崩れ落ち建物も傾いているようで、正直再建は無理と思つてゐるとの事でした。

た。なんとかならないものかと思つてゐます。

◆日本には百を超える活火山があります。国土は世界中の1パーセントしかない狭い国ですが、火山は世界中に1500あるうちの7パーセントもの割合で存在するのです。地震も世界の10パーセントあまりが日本周辺で起きているようですから、日本のいつどこで大きな地震が起きてもおかしくないのです。その心構えだけはしつかり持つておきたいものです。

◆日本は台風にも毎年襲われる災害大国ですが、世界でも珍しいはつきりとした四季があり、秋には山々が色とりどりに染まります。実はこれは世界の中では珍しいのだそうです。

◆ヨーロッパの国土は氷河期にほぼ全体が氷河で覆われた為、植生が貧しく、ヨーロッパの秋の山はほぼ黄色一色のみなのに対し、氷河に飲み込まれなかった日本は植生が豊かで、紅葉が多彩で美しいのです。明治期に日本を訪れたヨーロッパの人は、

「日本は国全体が国立公園のようだ」

と称えたそうです。

◆しかし現在、日本中のあちこちで、「カーボンニュートラル」「SDGs」の名のもとに、その美しい山の木々を根こそぎ伐採して、太陽光パネルが敷き詰められています。

◆山の木々が自然界において果たす役割は大変大きいものです。木は光合成で二酸化炭素を吸収して酸素を作り出しますし、水を蓄えて水害を防ぎます。土砂崩れを防ぐ機能もありますし、多様な生き物の住み家でもあります。最近クマが人間を襲うニュースを良く目にするのは、おそらくこれが一因の筈です。

◆またその事業者の多くが外国資本というのもあまり知られておらず、大事なインフラを外国に委ねる事自体が非常に不自然です。こうした事をきちんと検証せず、安易に山の木を切つてしまつて良い訳がありません。木を大事にするのが本当の「SDGs」の筈です。（禪林 恭山）